



# 海のたより



強風の三河湾合同レース  
兼MCCチャンピオンシップ  
ランナーと  
ホーネットが  
同点優勝  
兼スモールレースは  
バイキングが優勝

目 次		行 事 予 定
表 紙	三河湾合同、MCCチャンピオンシップ	6月21日 MCCカップレース(早朝)
P 2	エリカカップ、ガスト4度目の優勝	6月28日 スモールクルーザーレース
P 3	エリカカップ、MCC艇の活躍、コメント	7月11,12日 三河湾周航レース(ナイト)
P 4	エリカカップ、MCC艇の活躍、コメント	7月19日 ヨット体験乗船会
P 5	三河湾合同レース、パラフレニアン優勝	協力艇募集中
P 6	MCCチャンピオンシップ、2艇が優勝	7月24-26日 第50回パールレース
P 7	会員艇の紹介「ララ」	7月26日 蒲郡花火大会(竹島沖)

## エリカカップヨットレース、107艇の参加で開催

レース前日は回航中のヨットがデスマストするほどの強風、当日はうそのように静かな三河湾でした。風待ちの後、3クラスに分かれてスタート、風弱くS旗掲揚、竹島マークでフィニッシュでした。今年はおアフターパーティーを省略し参加料軽減、センターピアーで長江氏追悼式の後に表彰式が開催されました。

エリカカップはガストが4度目の優勝、上位入賞艇は

Aクラス優勝、ガスト、準優勝、パラフレニアン、3位、マンデイナイト  
Bクラス優勝、セレスティーヌ (MCC)、準優勝、アケア、3位、フローレス  
Cクラス優勝、ケーニッヒ、準優勝、アルミス (MCC)、3位、ハイビスカス  
Dクラス優勝、スーパーウェーブ (MCC)、準優勝、セフリン、3位、ウミツバメ  
Eクラス優勝、ホライズン、準優勝、フォーティ、3位、ドンキーマ  
Fクラス優勝、ブーメラン、準優勝、サーフメイド、3位、バイキング (MCC)



長江氏の追悼式



喜びのガストチーム

他のMCC参加艇は次のようでした。

Aクラス、ホーネット、  
Bクラス、ダンシングビーンズ、カゲトラ、ルートリス、  
Cクラス、うらなみ  
Dクラス、オデッセイ、  
Eクラス、ガメラ、ベベ、  
Fクラス、ホープ、メーヴェ、  
全成績表は外洋東海のHPをご覧ください

第2スタート



竹島沖F



## やっちゃんいました！エリカカップ クラスB優勝！

セレスティーヌ 加藤

「100年に一度の不景気！」といわれておりますが、「百年に一度の珍事？」と言うべきか、我々セレスティーヌはIRC-Bクラスでクラス優勝してしまったのです。

今年はそのなりに気合が入っており、IRCレーティングを取り、セールも新調し、...、と、それなりの準備もしてきましたので、本当に嬉しい結果となりました。

レースを振り返ってみますと、実は、出鼻を挫かれた感じでした。「コンディション、コース、セレスティーヌには悪くない！」「よ～し行くぞ！」と思いきや、ところが、ところが、スタート5分前にトラブル発生！（私の体調不良によるものでした。この場を借りて、クルーの皆さん申し訳ありませんでした。）

その為に、スタート失敗、少し遅れてしまったのです。「やぁー参ったな～。みんなが無言になっちゃたよ」と、クルーの顔を窺いながらのスタート。でも、ここからが今年のセレスティーヌの運の強さと言うべきか？何故か上に穴が開いてタック、1マークに向かってタック。そして、何故か他艇がオーバーランしていく中を我々はマークぎりぎりに廻ることができ、去年の優勝艇AKEAを発見。

ニューセールのおかげか？前日の船底掃除のおかげか？艇速では少し勝っている。「AKEAを抜くぞ！」と風の無



年に一度集結して繰り広げるお祭りのような雰囲気、しかも、其々の艇がそれなりに気合を入れくる。本当に素晴らしい、楽しいレースだと思います。

## C クラス準優勝

アルミス 稲垣

久しぶりに9名のフルメンバーで望んだエリカカップでした。いつも最後にハーバーを後にするアルミスですが、珍しく早く準備ができ何時もより早くレース海面に向かう。

既に多くのレース艇が海面に出ている、風は弱くスタート位置が定まらず、コミティーボートは豊橋港沖にアンカーリングして風待ちになる。取材のヘリコプターが2機飛来するが、スタートが延期となり燃料がなくなると心配をしていると西風がソヨソヨ吹き出す。結局、スタート予定の35分遅れの10時25分にIRC艇がスタートになる。

そして、10時35分にTRS艇のスタート、アルミスはコミティーボート側からまずまずのスタート、同型艇ケーニツヒの動きを気にしながらウエザーマークに向けてタック、ケーニツヒに3艇身前を通過される。風が弱く全員風下に移動しヒールを作りケーニツヒを追いかける。先行するケーニツヒはプロッパーコースを帆走する。アルミスは南よりからの順風を期待しモシタイ(Tsuboi IMS1030)と沖よりを帆走する。しかし、風上に位置したが風が弱く先行艇に少しずつ離され、風下のプロッパーコースを引く後続艇に追いつかれてしまう。

大島を通過する頃になって風が南に振れだし弱い南風でスピニアップする。微風のためコースは半分に短縮され竹島沖でフィニッシュした。その後南の順風が吹き出し、後続艇が気持ち良さそうにスピンを上げ帆走するのを見ながらバーバーに帰ることになった。今回のレースで同型艇に9分も離されており、今後は自艇のポテンシャルを最大限に発揮できるように頑張りたいと思います。

レース結果はTRSクラス66艇中12位、TRSのCクラスで18艇中2位、微風の弱いJV9.6ですが、まずまずの走りが出てきたと喜んでます。



スタート時、Sウェーブ

団、微風を考慮し、本部船寄りから頭を出す形を狙ったが、上手の「Carrera L」のブランケで、苦しいスタート。

渥美マークを「Perche」,「Quarter Deck」に続き10位前後で回航。前方には「Querida」,「Odyssey」,「Carrera

## D クラス優勝

SUPER WAVE 河村

エリカが今年2回目の乗艇という遅めのヨットシーズン入りのSUPER WAVEチーム。それ迄は陸揚げで、GW休みも船底磨きに精を出す。併せて、M/HとNo.2のジェノア2枚と長坂氏の還暦祝いで真紅のスピンを新調した。

朝早目の出艇で新調ジェノアのジブリーダー位置やトリム調整を確認しながら、ぶっつけ本番でスタートラインに向かう。スタートは、上有利、70艇近い大集





L」,「Arumis」「Mossy-Tie」等、大きく先行される。『今年のエリカは終わった』と内心思ったが、ここから起死回生の走りが始まる。

渥美マーク回航後、竹島マークへはポートの片上り。僅かに見えるブローを拾いに上手に位置取りしたくなるころだが、微風の片上り&潮を考慮し、「ラムラインキープでマークへ近付ける」を念頭に、下手先行するべくベア気味にスピード優先の走りに徹する事にした。これが功を奏し、先行艇団との差を徐々に詰め、IRC艇団のスピンUPも確認、大島に近付く頃には風が更に落ち、上手集団を次々と下突破、注文通りのごぼう抜き。

フィニッシュ直前で、上手後方の「Carrera L」が迫って来る中、スピンUP。下手の「Perche」や先行のIRC艇

団を上手くブランケしながらかわし、「Konig」に続いて着順2位でフィニッシュ。

微風&潮に対応した走りで、順位を上げる事が出来た内容の濃いレースであると同時に、長坂オーナー還暦祝いの真紅のスピンもお披露目出来、感激ひとしおです。

## Fクラス3位

VIKING 本間

第23回エリカカップレースの5月2日はどんより曇った朝で、昨日のレース委員長の期待通りには行かない弱風。今朝は海陽で降るす艇が多くて、出港が9:30を過ぎた。南西の風でスタート地点は豊橋港離岸堤近く、海陽からかなり距離があった。9:50のIRC艇スタート後に着けば良いと思って、ゆっくり走っていたら、観覧艇に追い越され、デッキ上の子供たちと手を振り合いながらスタート地点に着いた。風が不安定でスタートが延期され、短い南西の昇りレグと長い北西のレグを往復する3角コース一周に決まり、10:25にIRCクラスがスタートしていった。



TRSグループの我がVikingは乗員が正博、茂男の両早川氏と本間の3名で、ランニングバックステイの操作が手不足なので、風が吹かないことを祈ってメインセールを揚げた。ジブも一番大きなジェノアにして、クラスのスタートを待った。今年のTRSクラスは67艇のエントリーで長いスタートラインだったが、ほんの少し遅れただけで本部船近くでスタートラインを横切った。多くの艇がスターボードタックで南へ向かったが、Vikingは少し走って、ポートタックにし、開いた西の海面へ出た。上マークのレイラインに着いてスターボードタックにし、マークに到達した順位は割合に若かった。この日は大潮で次のコースは強い南西から北東の海流が想定され、茂男君の提案でスターボードのまま、ポートタックで近づいてきた艇群を掻き分け、このコースを南東へ少し延ばした。2~3分経ってからタックして竹島近くの第2マークへ向かった。途中青空が小さく見えたり、南西に黒雲が見えたりしたが、風は落ち気味ながら風向は変わらず、同じタックで走り続けることが出来、ランナーの操作も楽だった。Vikingではヘルムスマンに限らず、乗員全員均等の発言権で風、潮、大島の東の浅瀬などとコースの取り方の議論をしながら、少しづつ昇らせたり、スピードを付けたりとリムを繰り返しながら次のマークへ向かった。これでコースも少しはジグザグになっていると思ったが、後でGPSの航跡をみると船は勝手にほぼ直線コースを走っていたようであった。

40分程走ったところで、風が落ち、先行のIRC艇を見ると、スピンは揚げたが、予想外な方向へ走っていた。ゴールが見え始めた時点で、コース短縮で第2マークにフィニッシュラインが設定されていることが分かった。フィニッシュラインに近づくと大島の影響か、風が少し南に振れて、スピンをスターボードに揚げるが必要になった。ポート側に用意してあったスピンを茂男君が応急でスターボードに揚げた。あるかなしかの風の中でスピンを膨らませるのに苦労しながら、フィニッシュに近づいていたら、ゴールのほんの数分前に南西から南東へ廻ったそよ風が入り、気持ちよく走りながらゴールできた。この風向きの変化によって、コースを南へはなれていった艇ほど良い早く風を受けて、多くの艇が間もなくフィニッシュラインへ殺到していた。

レース後、ラグーナマリナー内を全艇でパレードし、快晴になったラグーナの遊覧船乗り場前のすり鉢形広場で表彰式が行われた。多くの参加者が見守る中で成績が発表され、各入賞艇の乗員全員が表彰場に並んで記念撮影が行なわれた。IRCクラスではGUSTが4回目の総合優勝ということで盛り上がっていた。VIKINGはTRSクラスのFグループで2隻のJ-24に続いて3位に入賞でき、これまで4回の参加中最高の成績を上げることが出来た。

## 三河湾合同レース優勝はパラフレニアン

エリカカップの一週間前の5月17日、天気予報では大荒れの予想、雷注意報も出ている中レースは開催され、参加を見合わせる艇も出た。

海上はしだいに風も上がり最大20k超、平均は15k以下、南の風で波が悪く小型艇には滑りにくい状況であった。

風も振れる傾向があり、第1レースは少し東に振れ下有利、一発でスタート、サイドマークまではスピン上がり

サイドからはマランに近くスピンを揚げる艇がちらほら、パラフレが手堅く1位、J24も頑張った。

第2レースは、第1レースでトラブッタ艇がDNS、風が西に振れ上有利、2度のゼネリコ後ブラック旗が掲揚されスタート、スイートアロハが失格、各艇、風波と戦いながら上マークに向かいました。

マーク回航後、即ジャイブ強めの風の中スピンにチャレンジした一部の艇は制御できず横倒しになった艇も見たそれを見ると益々チャレンジする艇は減少してしまっ

総合成績は手堅く走ったパラフレニアンが1 - 1で完全優勝、2位にはブーメラン、3位はフローレスであった。成績表はHP掲示板No624から見てください。



## MCC 春のチャンピオンシップは同点でランナーが

ランナー 南原

アフターパーティーで配られた成績表の一番上に「RUNNER」、MCCでは勝てるとは思ってなかったので、お父さんが白い犬になるくらい予想外でした。レース前日、折からの雨の中をずぶ濡れになりながら、船底をゴシゴシしてキレイに、寒い中を頑張ったことが報われました。

当日は、天気予報どおりの南東～南の強風。いつもなら出港をためらいますが今日は8人参加と大人数なので気兼ねなく出航。出てみると風向きが不安定で強風らしからぬ状態でした。

第一レースは設定風位からスタート前までには風向が変わってしまいました。かなり有利なアウターエンド側から出て、そのまま良い順位で上マーク。相当左に振れていました、感覚的には35度くらいでしょうか。計器は無いので正確にはわかりません。何せ勘だけが頼りです。この後は、ほぼマークに向かって走るだけ。ホーネットのすぐ後ろでフィニッシュしたのでこれは勝てたという感触でした。



左からホーネット、ランナー、オデッセイ

第二レースはヘルムスを白井君に交代。今度は極端なスターター側有利でゼネラルリコールを2回繰り返した後の黒色旗でやっとスタート。黒色旗スタートでX旗の掲揚は???でしたがあまり高くないのでとりあえず自分たちには関係なさそう。周囲にルームは確保していたけど、気が付けば下からどんどん近づいてくる船が。タックもできず後ろに入って結構大きなロス。下の下からスタートしたJ24がフラットにして上っていたみたい。こいつは走りがディンギーだわ。

1上マークは遅れました。でもここからは冷静に。前後の船の状況から振れを読んで、ジャイブにタックに。今日はそれなりに当たり、今年4レース目にしてやっと風が見えまし

た。結果はMCC完走3艇の3位でしたが、修正時間は思いのほか近く、感触の良いレースでした。

成績はホーネットと同点の1位。レースを振り返って見ると・・・勝因は風ですね。いえいえ、実力です。何せ8人もいましたから憂い無く出走して強風もなんのその。やはり人数が多いのはいいなあ実感しました。

## MCCチャンピオンシップ 同点優勝ホーネット

久し振りに記事を書かせていただきますホーネットの三戸です。

5月17日(日)今年初のMCCレースで、雨の強風予報で昨夜から意気消沈気味。

メンバーは中村艇長、鳥居さん、石原さん、多田さん、三戸の5名、ソーセージの強風レースには人数も体重も体力

**MCC海のたより6月号MCC海のたより6月号MCC海のたより6月号**



も体力も少々不足気味、おまけに天気は出航の用意をしながらも不安がつる灰色の空模様に合わせて、こちらの気分も曇り気味。今日のレースはラグーナとの合同レースでトライアングルとソーセージの2本。

一本目は上 サイド 下 上マークフィニッシュの三角コース。上マークまでのコースは190度1マイルの本部船表示、風は12ノットから23ノットあたりまで強弱があり、南風の影響で波が悪い。定刻どおりスタート。今回三戸はメインシートを担当。細腕メインシートトリマーは非力で、思うように仕事ができず不完全燃焼。上りのレグでは横流れて推進力うまく変わらず、30フィートの艇に追い上げられ、結果××位でフィニッシュ・・・疲れた・・・

2本目はソーセージ。5レグ、下マーク回航のシート引き込み3回、イメージして自分を励ましていたが、スタートでゼネリコが続き3回もスタートして、温存していたはずの体力を使い切ってしまう、すでに疲れてしまった。2レース目は、バテンを失った事もありメインをリーフ、これで1レース目ほどのオーバーパワー感が減った。下りのレグについて、ホーネットはスピンを使用しない安全策をとった。波が悪く風も不安定なので運悪くワイルドジャイブやブローチングしている艇もあったが、先頭集団は当然スピンランで、慎重に安定して走れば、やはり速い。今回スピンを選択しなかったことに後悔はないが、躊躇なくスピンを選択する気力と技術は身に付けなくてはならないと思った。

レース終了。バテンを失うミスはあったものの大きな怪我や破損もなく無事終了でき、安堵。

レース中は船酔い気味だったので、後の蒲郡荘での生ビールと食事はとても美味しかった。

レースしながらも船酔いしてしまうほどの悪コンディションの中、本部船やマークボートで、レース運営をしてくださったコミッティの皆様本当におつかれさまでした。ありがとうございました。



## スモールレースはバイキング

VIKING 本間 宏

MCCのスモールレース、09年4月の第1レースはVikingはコミッティ、蒲郡ヨットハーバーに出かけたが、集合した時点で、ヨットを出したくない強風だった。北西の強風で、冬でも余り無いような大きな白波が無数に立っており、ハーバーの南側ポンツーンに舫ってある大きなヨットが一様にマストを大きく左に傾けながら揺れている、即レースは中止になった。

09年5月の第2レースはラグーナマリーナとの合同レースで、大型艇と一緒にスタートするレースである。この日は南の白波が立ち始める強さの風で、蒲郡ヨットハーバー南の岸壁前は大きな波が押し寄せ、今度は西側のポンツーンの小型艇たちが右に傾きながら揺れていた。

ハーバーに集合した時点では船外機の小型艇はハーバー出口で波に叩かれ往生しそう、中村さんからはスモール艇は無理をしなくてもいいよと言われた。MÖWEは若い女性のお客さんを2名も招待して張り切っており、これにつられて我がVIKINGもスタート海面まで行ってからレースを考えることにして、兎も角参加することにした。Vikingの定例のクルー4名のうち、2名は都合が悪く、残りの2名とガメラから小川君が乗ってくれることになり、3名で出港した。Vikingは船外機艇で波がある日にはペラが空を切り、なかなか進まない。思い切って回転を上げれば、船首が持ち上がり、船尾が沈んでこれは解消するのだが、これでペラが空を切ると冷却水インペラーの羽が千切れてしまうので、妥協点を探すのが難しい。今朝は3名ともスターンに座って走り、ハーバーからレース海面まで移動して、セイルを揚げたときにはスタートギリギリになっていた。

この風では乗員3名ということもあり、メインセイルは最初から2ポイントリーフ以外は考えられなかった。2ポイントリーフなら、ランニングバックステーの操作なしにメインセイルを操ることが出来る。ジブは手持ちの中で一番小さい100%をセットした。

スタート海面に着いてみると、ハーバー前よりも波が丸くなっているように思えて、大型艇に混じってスタート準備に入った。第1レースは三角コース、上マークフィニッシュの4レグで、昇りレグでは2ポイントリーフでもヒールがきつく、メインセイルから風を逃がしながら、凌いで走り、何とかゴールした。

第2レースはソーセージコース全5レグで、皆さん闘志に溢れていたのか、単に(お年の所為で)気が急いでいたのか、2回のゼネラルリコールの後、スタートになった。スモールにとっては昇り3レグは厳しかった。またこの日は降りのレグではスピンを使おうとは誰も言い出さず、ひたすらおとなしく走り続けた。このレースでは大型艇のスピンが目の前でバンクするのを見た。また横倒しになった艇も数艇あったと後で聞いた。我がライバルMÖWEは第2レースをリタイアして、お客さんサービスに努めていたようで、お蔭で今年度初レースは1位になれた。

この日は風が強かったので風を見ながらのタック、ジャイブを考える必要(余裕)も無かった。風向、風速とも安定していて、最小限のタック、ジャイブで済ませることが出来、それ程危険な目にも会わず、男性的な力の入ったレースを楽しめた。レース終了後、ハーバーに戻る時には風、波ともに収まり始め、ゆっくりと降りのセーリングを楽しめた。

# 会員艇の紹介 「ララ」グループ

今回はララグループを海陽ハーバーに訪ねました。

ララグループと言えば、岩瀬氏、6年程前の6月早朝レース、スタートし大島の沖でトップに立ったのに突然スピンドウン、ハーバーに引き返して行った。

救急車で市民病院に・・・一命を取り留め、養生したおかげで後遺症は少しあるものの無事定年を迎え、今は悠々自適・・・毎週ララグループの集い、家では最近覚えた能面彫りもしているそうです。

グループの成り立ちは枡井氏が岩瀬氏をヨット仲間に誘ったことから、ディンギ - から始まり武市23(自作)、ヤマハ24、ヨコヤマ30、キハラ295、IMS950と続きます。当初からのメンバーは、岩瀬(60)、枡井、成瀬、藤田、その後メンバーの変遷もあり現在は大竹、原、山本(37)が加わり7名、平均年齢50歳です。



愛艇「ララ」の前に集合

一番の活躍時期は、ヨコヤマ30「ララ10」82年の全日本クラス別選手権にてハーフトンクラス優勝、82,83年MCC年間連続優勝、練習も積み技量の向上に努めた結果です。さらに上を目指す山崎氏が独立、グループはキハラに乗換えました。

昔話では、荒れた布施田水道を越えた時、土砂降りで見えない、音だけが聞こえる？気づけば後ろから巨大な黒い塊が・・・追突される、とっさに反転、マストを舷側に接触した後、波に押されて一瞬で正面回避、さらに荒れた大王岩では暗礁に接触しながら波で乗り越えて通過、九死に二生を得、思い残すことのないようにとの的矢湾に・・・頑丈な自作艇だからこそこのビックリ話でした。

原は分家新家のリゾートララで、山本はスーパーウェーブで修行、成瀬は外国勤務から現在は苦小牧に・・・取材後は定例会の定番、皆で海岸を散歩がてら「たぬき」まで出掛けて行きました。



マリンカップにて  
伊良湖水道沖にて

